

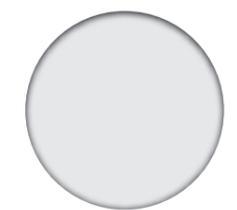
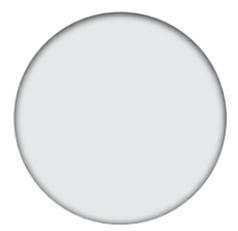
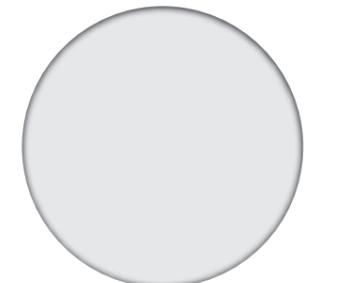
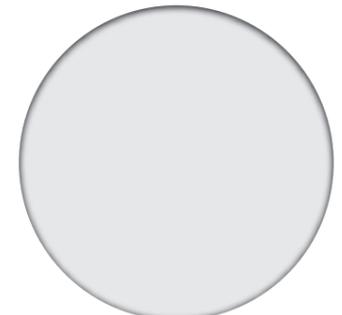
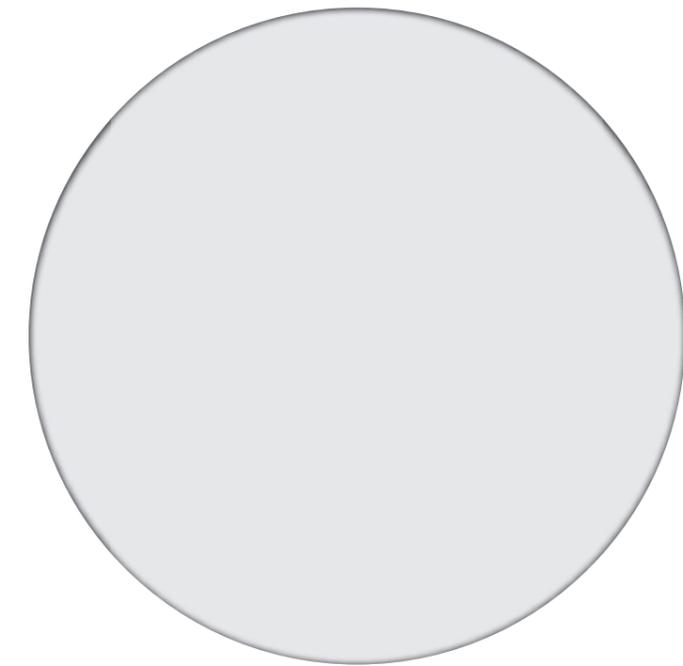


お
お
い
町
勢
要
覧





輝く笑顔が
うみだす希望
情熱よせ合う
ふるさと「おいしい」



CONTENTS

ごあいさつ	4
巻頭特集 ふるさと座談会	6
PART 1 心よせ合う情熱のまち	15
赤の輪 祭	16
青の輪 海	18
緑の輪 自然	20
橙の輪 食・特産品	22
紫の輪 歴史・文化	24
まだまだあるおいしいの輪	26
イベントカレンダー	28
PART 2 笑顔つながる希望輝くまち	29
創生の輪	30
政策の輪	32
統計資料	40
タウンMAP	42

おおい町
紹介動画公開中!



<https://youtu.be/4KkUd9uBKXM>

上記のQRコードに
アクセスしてみてください

マスコットキャラクター
「うみりん」

町の豊かな自然をモチーフに擬人化したキャラクター。名前も、「海」「森林」など美しい自然をイメージして名付けられました。
(平成20年3月3日制定)



おおい町

町民指標

海や山、川、里の美しい風景は、まちの“宝”です。私たちは、まちの“宝”を守り、育てていくとともに、この町に住み、働き、学び、憩う全ての人々と協働で創る明るく、住みよいまちづくりのよりどころとして、ここに指標を定めます。

思いやりを大切にし、さわやかな町にしよう
みんなで力を出し合い、豊かな町にしよう
自然や文化を愛し、魅力ある町にしよう

(平成20年3月3日制定)

ごあいさつ



おおい町長
中塚 寛

日本は有史以来初めて、少子高齢化による人口減少時代を迎え、地方では高齢化と人口流出に歯止めがかららず、地域コミュニティの衰退や、自治体そのものの消滅さえ危惧されています。これらは、決して地方だけの問題ではなく、日本を支え続けるために「地方創生」が必要とされる時代となりました。

振り返れば、私たちの先人、先輩は高度経済成長期、過疎が進行する中で、担い手が高齢化し、兼業化を余儀なくされた厳しい一次産業を守り続けてきました。農業や、漁業では地方の生活と都市の食を支え、山林においては木材資源の供給だけでなく、水源の涵養、温暖化ガスの吸収など、山林が有する公益的機能を、低迷する価格の中で守ってきました。

また、子供を産み、育て、教育を受けさせて、勤勉で優秀な労働力を輩出し、さらに、都市には建設できない原子力発

電所によって消費地に電力を供給し、国の繁栄と人々の生活を支えてきました。

かつて成長期において、都会の生活にあこがれ目標とした価値観や文化によって、東京一極集中が進み、気が付けば、大都市は画一化と没個性化が進み、匿名性も相まって、ひとの顔と心が見えない社会となりました。

振り返れば、地方にこそまだまだ使われていない資源や文化、豊かな人情と絆が残っています。地域活性化のキーワードとなる豊かな町の個性が私たちのふるさとおおい町には残っているのです。

「田園回帰」が目される今、まだまだ発掘できていないおおい町の宝を、みんなが持ち寄る様々な感性で磨きあげ、発信することによって、ふるさとへの愛着と誇りを一層高めながら、「参加型まちづくり」で多くの町民が活動し、総力を結集して、私たちが支えてくれるおおい町を元気にしなければなりません。

この町勢要覧がおおい町の現状と数値の紹介にとどまることなく、町のすばらしさや可能性の発見、そして元気なおおい町を未来につなぐ契機となることを願ってやみません。

おいしい町の元気人 おおいに町を語ろう！

ふるさと座談会

町民を代表して、元気人9人と町長にふるさと「おおい」についておおいに語り合ってもらいました

テーマ1
町の強いところ、
弱いところとは？

成田さん おおい町は山があり、きれいな川があり、海があり、農業も漁業もあり、これだけ恵まれているところはな...
「高齢者も子どもも元気な町」



見守り隊の活動を行う成田さん

少ないけれど子どもたちも元気で、本当に素直です。話をするとみんなと仲良くなれます。親の名前は知らなくても子どもたちの名前を知っているというくらいです。おおい町のいいところは、自然に恵まれ、人数は少なくとも高齢者も子どもも元気な町だ

ところですね」とよく言われます。

足立さん 一次産業の農業は高齢者の方の生きがいにもなっており、先日もあるおばあさんから「畑があることがあって楽しい」という声を聞きました。女性ネットワークの会議の中では、おおい町にたくさんある空き地を有効利用できる...
「若い人の意見が出せる場もつくっていただけたら」



おおい観光フレンズとしてPR活動中の東さん

は、おおい町の若者同士の出会いも増えて、ゆくゆくは結婚して町に残るカップルが増えるのではないだろうか。これからのまちづくりには若者の意見や力が必要だと思いが、このまま出ていく人の方が多いでしょう。若い人が意見を出せる場もないのが現状です。若い人たちの意見が出せる場もつくっていただけたらと思いま



東さん おおい観光フレンズとして県外へPR活動に行くことがあります。何をお勧めするかというと、高齢の方には自然や特

産物をお勧めし、子どもさんにはレジャー施設がたくさんあるのでそれらをお勧めするのですが、その間の年齢層や特に若い世代の方々に何をお勧めすればいいのかと、いつもわからないなと思うことがあります。足立さんから若い人の意見という話がありましたが、私もまだ独身で、この先、おおい町に住むとなつたときに思うのは、私の住む名田庄地区は人も温かくて、ずっと住みたいと思いつつも、交通面や子育てしていくのに必要なものがちゃんとあるかといった不安もあります。また今、友だちと土日におおい町で遊ぶことはほとんどなく、小浜や県外に出ることが多い状況です。若者が集まることのできる場所があれ

ということだと思っています。そんな町だからこそ一次産業が元気にならんといかんのですが、人の気質として消極的な人が多いという欠点があるように思います。積極的な人をどんどん増やすようにしなければいけないと思っています。



町長 先人の守り続けてきた土地伝来の産業をしっかり後世に守ってくださっていることも大事です。一方、エネルギーについてもリスクを負いながら国を支えてきた歴史もあります。また、子育てについては、おおい町が自慢できるところでもありません。周辺の市町に比べて「子育てしやすい」とい



町長 中塚 寛

婦人福祉協会 足立さん

たまたばこ 長井さん

グラウンドゴルフ・子ども見守り隊 成田さん

おおい観光フレンズ 東さん

合同会社 くだものがり 山本さん

専業農家 溝口さん

星のフィエスタ 実行委員会 岩崎さん

商工会青年部 村松さん

スーパー大火勢 実行委員会 岸崎さん

てくれる若い人ですからね。少子化によって若い人が少ない中でも、次の時代をどんな風にしたいかが発信でき、それを皆さんと共有して取り組める行政にならなくてはいけないと思っています。レジャーについては、人口が少ないために経営が成り立ちにくいのが現状です。しかし、先ほど皆さんの意見にも、自然が豊かで人が温かいというのがありました。おおい町には、田舎らしさ、というものがありません。都会の人は、田舎には自然の中でゆったりと流れる時間があり、余暇もいろんな使い方ができると田舎志向の人が増えてきています。加えて、田舎では地域の中で、自分の役割が見えると言われます。都会では見えなくなってきたらいいですね。若い人にも田舎志向が出てきていることから、おおい町のよさをどんどん発信すべきだと考えています。



おおい町観光PR大使に任命されたウーマンラッシュアワー

そうした情報をいかに発信するかについては、ホームページもその一つとして力を入れています。町出身の村本大輔君やウーマンラッシュアワーが登場するPR動画や、四季の動画で町の魅力を見せたり、より知りたいことが調べやすい、そして、町内外の人にとって魅力的なホームページとなるように工夫をしているところですね。

田舎のよさを どんどん発信すべき

足立さん 私の娘は町外に出ていますが、おおい町のことをインターネットでよく見ており、おおい町は本当に素晴らしいと言っています。町外に出るとふるさとのことが気になってよく見ているようです。子育て支援などは、どこにも負けていないと言っています。でも、東さんが言われたように、若い人がデートする場所とかがいっぱいあればいいなと思いますね。



岩崎さん イルミネーションをした時に、行政からやってくれといわれてやりました。が、みんなであつくり上げている感じが持てま

せんでした。行政が人を集めてこれをするとなると、モチベーションが上がらないですね。行政は支えるだけでいいかなと思います。

町長 まさにそこが、これからのまちづくりに必要なコンセプトで、町民の方々と対話をして、あるいは議論をして、説明責任を果たしながら政策を構築していくとか、また町民参加で様々なことをつくり上げていくというのを私のコンセプトとしています。イベントをするというのは目的で、そこまでのプロセスを大事にして、そこで知恵を出し合ったり、相互に協力し合って生み出すことが大切です。そんなやり方を基本にしていきたいと考えています。

テーマ2 弱いところを 皆さんの活動によって 改善するとすれば？

村松さん おおい町の弱いところは、どういふところかなと考えた時に、人が消極的という話が成田さんからありましたけれども、確かに一歩前へ出る勇気が足りないかなと思います。旧大飯地区で言えば、発電所が来てから、とても豊かになり、講演会などに有名な方が来て無料で、逆に千円の料金がかる場合には行かないという風潮があります。言葉は悪いですが、平和ボケ、というか、ぬるま湯に浸かってきた感があります。しかし、発電所は今後どうなるかわからないという状況で、商業者の私



が、行政の支援を受けながら、一次産業をやるうとする若手の取り組みが活発になればいいなと思います。

町長 本日に一次産業は守り続けなければいけない。衰退すると町の元気がなくなるとは明白なんです。例えば、かつては個人では流通経路を持たず販売力も発信力も持たなかったのがJAに委ねていまして、今、世の中は個性化というか、多様なストーリーが消費者に興味を持って受け入れられる時代が変わってきました。ですから、溝口さんや山本さんのつくる野菜や果樹・果物の特徴やストーリー性を前面に出し、興味を持って食べていただくことでそのよさがわかる取り組みが必要だと思っています。このストーリー性の話も先ほどのイベントの話もそうなのですが、個々に考えていることを具現化していくこととすると、昔のように行政が最大公約数で事業化をするのでは、かえって没個性化を招いたり、できることに限界が生じます。皆さんの主体的な取り組みや活動を行政が支援するという方が、個々が輝き、多様な支援ができるのではないかとイメージを持っています。かつてはトップダウンで行政が主導していたかも知れませんが、今後はボトムアップをいかに支えていくかが大切だと思います。行政は複雑な仕組みのなかでどうしても動きが遅くなりますが、民間を支援するという位置付けで、多様な個性を発信して積極的に取り組んでいることを行政がバックアップするというのは、意外とスピーディーにできるかもしれないと思いま

す。みんなが元気になるには、いきいきとやっていけることを見つけて、そこを支援するというのが重要です。主体的に取り組む人たちが元気になり、それによって町も行政も活発になるというやり方を重視していきたいと考えています。

足立さん 名田庄では中学生がトマトの収穫体験をしていますね。溝口さんや山本さんのところでされるのもいいかと思いますが、子どもたちにとってそうした体験は、農業や町に興味を持った子どもたちが次の世代のおおい町を守っていくにつれてくれるのではないのでしょうか。大きな会社に就職するのは魅力かもしれませんが、故郷で頑張った中学生に体験を通じて学んでもらえれば、地元根付いていってくれる子が増えるの



の立場からも危機感を感じています。そんな中で一歩前へ出るどうか何かする必要性に迫られていると思います。それが何かという点、個々で異なるでしょうけれども、特定の人や行政がやるのではなく、一般市民の誰でもが手を挙げられるようにならなければと思います。目立つと何かと足を引っ張ったり、文句を言ったり、叩いたりということがありますが、それをしないで応援するというように、風土も変えなければいけないと思います。様々な分野で立ち位置も環境も違うので、全部が一緒なことをやらなくてもいいですし、それぞれの分野で一つずつでも出てくれば、消極的という風土が変わっていくのではないかと思います。具体的ではないですが、そんな思いを持っていきます。

溝口さん 私は名田庄地区で農業を始めてからまだ4年目ですけれど、おおい町は色々なものが揃っていますが、これといった強い特産品づくりがまだ弱いように思います。おおい町の気候は農業に適している、何でもつくれそうなところなんです。それで色々な事を考えて、ブドウは収益性が高く、県もブドウの普及に力を入れていたこ



大根を収穫する溝口さん

とから、ブドウの栽培を始めました。また、全国的に耕作放棄地の問題があり、おおい町にもそうした土地がありますが、自分が借りている畑の周囲は山間地にも関わらず荒れ地が少なく、それらはシニア世代の方々が個人個人で頑張って守っていらっしやいます。それは名田庄のいいところだと思っています。自分はそんなおおい町の田舎で野菜と果樹栽培を行い、生計を立てていくという方向性を見い出しました。今日は、イチゴ栽培の山本さんもいらっしやいます



名田庄保育園 田植え

ではないかと思えます。

町長 そこはまさに一番大事なところで、今の若い世代は人と触れ合うとか、自然と触れ合う体験をするというのが昔に比べると少なくなりました。ですから、故郷に対する愛着を体験として持っていないから、地元で暮らす選択肢は魅力に乏しく思えるわけで、故郷教育の面でも、地元で根ざした農業や漁業などの一次産業の体験や教育は、皆さんと協力してどんどん推進したいと考えます。

岩崎さん 僕たちがやっている名田庄の「星のフィエスタ」は、18歳から30歳くらいまでの人が実行委員会になり、祭りをつくっています。そこでは行政がおつて僕らがおつてではなく、僕らがおつて後ろから行政が支えてくれるというかたちをとって、15、16年前からやっています。僕らにとつては、好きなことができる、自分たちが楽しめる祭りをさせてもらっている団体と言えます。誰かにさせられるのではなく、よつしや、やつたる」という祭りを毎回やつており、それを若い人は子どもの頃から見てきて、自分らも「星のフィエスタ」を



やるんやという意識を持ち、その仲間に入ることが、ある種の誇りのようになっていきます。そうなると、若い子に、自分たちの住んでいるところをもっと盛り上げてやろうという気持ちが出ていくんですね。僕自身、入ったときは、なんでそんなに入らんといかんのやろ」と思った時もあったんですが、次第に活動が楽しくて仕方なくなるんですね。そういう気持ちで段々大きくなって、名田庄をもっとよくなりたい、おい町全体をよくしたいという方向にどんどん盛り上がっていききました。そうしたステップアップをつくっている「星のフィエスタ」は、僕らにとって大きな存在です。名田庄の若い人は先輩らが、来いや」と言えば、すぐ集まってくるという体制が既にあるんです。また、実行委員長として色々な場に出るようになって感じたのは、大飯地区の若い



名田庄 星のフィエスタ

人たちは、みんなで何かをつくり上げること、あまり関わっていないのかなということでした。それは寂しいなと思います。クラブ野球や運動会には若い人もたくさんいるんですよ。そういった若い人たちが自分たちのしたいことを発揮する場があるといいのではないかなと思います。僕たちがやっていることは、何の報酬もなく、ただしんどいだけなんですけれども、それでも達成感が絶対あるので、そういうところをみんなに経験してもらいたいなと思います。

町を盛り上げてやろうという若者の気持ちを育てる

町長 そういう活動があちこちで起こってくるのが大切で、上から降りてきたものを受けているだけでは批判しか生まれませんが、主体的に取り組めば必ず前向きな気が生まれます。主体的に取り組む皆さんを応援したい、どんどんそういった活動が出てくるといいなと思いつつ、お話を聞いていました。

テーマ3 将来的にどんな町にしたいか？

長井さん 大島は海の幸が豊富で、一年を通じてとても自然に恵まれているところなんです。魚も貝も海藻も、お米もあり、果物も採れて、ありとあらゆる食べ物がありません。若狭地方の気候はともよく、大雨もないし、雪も少なく、とても住みやすいところなんです。

私は漁協の依頼で大島の美味しい海の幸を加工して、人に知ってもらい食べてもらう活動として「たまたまばこ」を立ち上げました。子育てが終わわり、主婦業に少し飽きた友人に声をかけ、その人がまた友人に声をかけるといった具合に誘いの輪が広がり、同じような年代の人が集まりました。当初は喋ったこともなかった人たちが、あれから20年近くになります。家族ぐるみの人の輪が広がりました。私は本来、人と喋るのが苦手、緊張するタイプでしたが、今では保育所の子ともたちから年輩の方

で、誰でも喋ることができるようになりました。それはグループに入って培われました。最初の年は年輩の方から叱られて泣くようなこともたくさんありながらも、見習うことも多く、いい体験をさせてもらったと感謝しています。家の中の会話も増え、また、グループのメンバーの家族同士の繋がりもできて、それがとても嬉しく思っています。

「たまたまばこ」では、小学校6年生のへしこづくり体験を10年近く続けています。最初の頃に鯖のさばき方から教えた男の子が今、教師を目指して大学に通っており、あの時のおばちゃんをよく覚えていっていると言ってくれました。体験では、なぜ若狭で美味しいへしこができるのかといった話や、おい町の素晴らしさを話しながらへしこづく



「たまたまばこ」のへしこづくり



くりを体験した子どもたちが、将来、ふるさとに誇りを持ち、他所の友だちにおおい町の話をしてくれるのもいいことだと思います。

私はこうした経験から、皆さんにお伝えしたいのは、何か依頼がきた時には、まず受けてみる、それがきっかけで次の世代に引き継ぎ、発展していく可能性もあると思います。最近では「しくまいる（はまかせ交流センター）」活動が盛んになり、農業をしたことのない人が年輩の方から教わり、知らない人同士が畑作業を楽しんでいます。

今年から「大島おたっしや会」というグループがお弁当を作ったり、寸劇などもしながら、年輩の方々との交流も行っています。やっている私たちが段々と面白くなり、会場からお菓子は飛んでくるやら、お金が飛んでくるやら、タモで受けるのが大変やっくらいいものすごかったんです。やはり何年も続けてきて受け入れられ、心から繋がれたんだと思います。人つてすごい

人が宝であり、その繋がりが新たな宝を生む

なと思います。繋がっていく面白さがあるんです。私は色々な所に首をつっこませてもらって、本当によかったと思います。おおい町には素晴らしい自然があり、それを守っていくには、人の元気が必要で、元気のためには美味しい食べ物が、美味しい食べ物をつくるにはみんなの力が必要です。一人では絶対できないこともみんなでならでるので、声がかかったら絶対に拒否しないで欲しいですね。人が宝であり、その繋がりが新たな宝を生むのだと思います。

町長 今、人が宝と長井さんがおっしゃいましたが、本当にそうです。人は財産であり、自然環境や美味しいものも宝ですが、おおい町は人財こそが宝だと思います。人材をみんな育て、リーダーとなる人を育てることが重要です。

長井さん そうそう、三度喋ったら好きになる、見た目ではとつきにくくても、喋ってみたら好きになるといことを活動で学びました。一緒に畑をしている若いお母さんたちからはLINEのやり方を教えてもらい、毎日、LINEを使っています。いい付き合いがどんどん広がって互いに教え合い、成長し合えるのが本当にいいと思います。

岸崎さん どんな町にしたいかということについて、僕はまず町長さんの思いを聞いてみたいと思います。

町長 はい。町長になってから皆さんから、





んながやりたいことをバックアップすることを一番大切に考えています。そうした取り組みをしていけば、先ほどから皆さんのお話にあるように、町に元気が生まれてくるはずです。

岸崎さん 合併した当初よりも今、随分と人口が減り、このままいくとおおい町の人口がどうなるのかと思ひ、僕としては何をしたらいいのか解らないというのが本音です。ただ、この町は発電所がきてから裕福なんです。講演会もタダ、何かしたいと言えばお金が出るといった状況で、これではダメだと思ひます。これはどうにかしなければいけないと、みんなが思わないといけない。どうすればよいか解らないですけども、一度、破綻してみるとか、そこまでいかなければ意識が変わらないのかとまで思っています。

みんなが興味を持っていることから
元気になってもらう

に難くないし、もう目の前にあります。かと言ってあまりに危機を感じ過ぎて、とりあえず何かしなければいけないと焦ることよりも、みんなが興味を持っていることから元気になってもらう。みんながその元気を元気にしたら興味は湧くはずなんです。もちろん観光誘客も大事ですけども、本来大事なのはそこで多くの交流が生まれ、気が付きが生まれたり、次に繋がってリピーターを呼び込んだり、将来のための仕掛けができたということが大事なわけ、来客数だけが大事なのではないと思ひます。そこからみんなが工夫をして、人生は一度きりですから、自分の人生の中で輝けることを自分なりに工夫してやってもらう。それが増えて、町も支援することで、地域も皆さんも産業も光ってくるのではないかと思っています。

岸崎さん 先ほど星のフィエスタは若い人も入ってきてくれて、いろんなことを楽しんでいると聞きました。とても羨ましいことです。僕が実行委員長をしているスーパー大火勢は、スーパーカチカチで若い人がなかなか入ってくれない状態です。旧大飯町の人々の消極的な性格もあるのか、一



生懸命に誘っているのですが、家族で見ている方がいいと言われる場合がほとんどです。たくさんの寄付もいただいて、僕らは必死でやっているのですが、「お前ら酒飲んで終わりやろ」と言われることもあり、全体としては今一つ盛り上がっていないように思ひます。

長井さん そんなことは気にしたらあかん。どこにでも言う人はおらんや。

町長 僕は、何でも減点法ではなく、加点法でいかなくはないかと思ひていて、例えば、スーパー大火勢で駐車場が満車になったり、混雑するので、今年はその何とかしようというテーマを持ち、様々な取

どんな町にしたいのかとよく聞かれます。「あなたのカラーを出してよ」とね。僕はみんなが楽しいと思えることをしたいと思ひています。楽しさは人によって千差万別ですけれど、それぞれに楽しいなと思うことを皆さんが一步踏み出して、町のためになることをやってもらえるようにしっかりと応援したいと思ひています。

僕一人だけで、この町の様々な事業をフォローアップする力も知識もありませんし、そんなことは不可能です。だから、みんながやりたいことをバックアップすることを一番大切に考えています。そうした取り組みをしていけば、先ほどから皆さんのお話にあるように、町に元気が生まれてくるはずです。



大火勢準備

あつても農地だから建てられませんが、本郷は坪単価がとも高い。若い人がおおい町に住みたたくても、小浜市や高浜町に土地を求めざるを得ないという状況が続いています。電力会社に勤務する人も高所得の人も、隣の市町に家を建てています。そこを何とかしなければいけないと思ひます。おおい町に住みたいという人がたくさんいるのですから。また、全国的にも空き家の問題があり、一番問題なのがお仏壇などのご先祖さんのことがあります。そうした問題もあつてなかなか難しいと思ひますけれども。

町長 確かにその意見は結構ありまして、農業を振興して自給率を上げようというところで農業振興地があり、農地転用許可制度のしぼりがきつくなつて、自分の土地に家を建てたくても建てられないのは不合理です。一方で耕作放棄地が増えていきます。その理不尽さを政府も解るべきです。町としてもこれについてしっかりと意見を述べていきます。また、空き家については、倒壊の恐れのあるものをきちんとして、宅地として整備するなどの対策を考えると一つです。持ち主との交渉やご先祖様のことなど、ハードルとしては高いものがあります。そこをしっかりと処理できるような知恵を出しながら、土地の有効活用を考えていきたいと思ひます。

山本さん 僕は10年前から桃をつくって、まして、当初は県の人にも話をしたので、が、「そんな無理やで」と、取り合つても



くれない感じがしました。誰もこんなところで桃ができると思ひていなくて、そこで自分で勉強して自分の気持ちでやってきました。そして、やっと形になり始めたころに、イチゴ園の話をいただきました。僕は農業が好きですし、おおい町のためになるならばと、やらせていただくことにしました。今は苗付けが終わり、12月から5月まで収穫でき、年間で1万8千人の来場者を見込んでいます。せつかく京阪神からお客さんが来てくれるので、ぜひおおい町の観光施設を訪れてもらう手段があればと思ひ、自分のホームページに載せたりしています。遠くから来た人は、訪れた所の近場の施設を回つてから帰るというのがあつたので、そこをどうやって繋げるのかというところは、僕個人では無理です。で、なんとかならないかと思ひています。

町長 そうですね。動線を工夫しておおい町のいいものを有機的に結びつける発信の仕方というのは大事ですから、そこに力を入れたいと思ひます。

足立さん イチゴ狩りは子どもだけでなく年輩の人でも来られるのなら、次のスポッ



若狭おおいのスーパー大火勢

トがきのこの森だけでは無理です。今ふつと思つたのですが、大島に重要文化財のお寺がいくつかあるので、それらを巡るルートを紹介するといひですね。魚釣りを体験してもらつてもいいですし、景色もいいですね。イチゴ園から少し離れています。名田庄で厩舎や道の駅にも寄つてもらつてコースとしてアピールするといひですね。



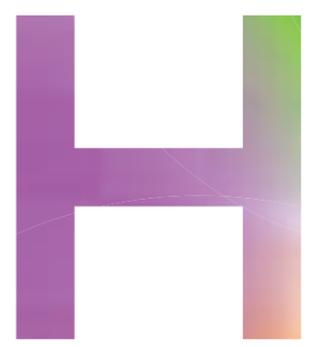
り組みを前向きにやつて下さいました。ただ、祭りが大き過ぎるために若い人の意見を反映するのが難しい部分も確かにあります。しかし、若い人が準備段階の企画から半年以上に渡つて一生懸命に取り組んでくださつています。若い人が一つの目的のため一丸となつて一生懸命に汗をかいて、知恵も出して取り組んで、そして、一同に会してお酒を飲めるのは素晴らしいことです。また、そこに寄付をしてそれでみんなに反省会してもらえ、そんな素晴らしいことはありません。ですから、ぜひ加点法で考えてより素晴らしいものにしてほしいと思ひます。

長井さん あと一つ、おおい町に足りないのは宅地ではないかと思ひます。休耕田は

ひとりひとりの心が
あつまり輪になり
情熱にあふれるまち

PART 1

心よせ合う
情熱のまち



山本さんのイチゴ園

長井さん 観光客の人は大島地区に入っ
て車を走らせていると、この先に何があるの
かわからずに、途中で帰ってしまう人も多
いようです。せめて10キロメートルの道
の中間に何かがあるといいんですけども
ね。桜並木もきれいですね。

岩崎さん 景色を楽しめる小さな公園が
あってもいいですね。

町長 スポットとしてはいいものがあるの
で、それらを結びつけて紹介する努力、動
線を誘導する努力が絶対に必要だと思いま
す。

山本さん おおい町は原子力の町という

のがありますので、原子力だけでなく太陽
光発電や風力、火力、水力などについて、体
験や勉強ができるようにして、総合エネル
ギーの町としてアピールできるといいかな
と思います。

町長 山本さんのエネルギーの話は非常に
大切な部分で、諸先輩がご苦労なさってこ
こまでしてくださったことを我々は認識
しておくべきですし、福島の震災による事
故以降は「あんたらも福島と同じように加
害者になるのか」という議論が、東日本震
災以降初めて大飯3、4号機を動かす時に
あったということも、認識していなければ
なりません。

自然を守り、食糧を供給し、またエネル
ギーを供給してきたのが地方なのです。と
ころが今、地方は人口減少と
高齢化で非常に疲弊していま
す。そこは都会の人に気付い
ていただき、お互いのため
にできることを補完し合い、協
力し合うことが大切なので
すが、今の時代は相互理解が
なかなか難しいのが現状で
す。今、ご提案いただいたよ
うに、総合エネルギーやバイ
オディーゼルなども含めて、
今までエネルギーで支えてき
た町ですので、今後もエネル
ギーに関わる町としてやって
いってはどうかという意見も
結構いただきます。また、一方
で、小さい町にでっかい原子

町民みんなの意識改革ができれば
色々なものが生まれるはず

力がきたために、産業構造の
中で、原子力に特化したり、
依存が芽生えたのも事実か
と思います。しかし、今後
は、エネルギーは基幹産
業ではあるけれども自分
分たちに何ができる
かを模索し、活性化
を図る努力が必要で
す。そのために、みんな
の喜べることで、楽し
めていただく、一
歩踏み出すという
ことが大切で、みん
なの気持ち、意識改
革ができれば、色々
なものも生まれて
くるはずですよ。あつ
ちでもこつちでも生ま
れた色々な元気に対
して行政はしっかり
応援をしていき、それ
により町全体が活性化
し、さらに多彩な可能
性に繋がっていく
と思っております。
皆さん、是非一緒
になって元気になれ
ることをやりましょう。本日
はいいご意見をお聞かせくだ
さいまして、ありがとうございました。



おおい町の元気人の皆さん
ありがとうございました！

おおい町
赤の輪祭

若狭おおいの
スーパー

大火勢

高さ20メートル重さ1トンの
巨大な松明が海上に舞うスーパー大火勢。
毎年8月、伝統ある勇壮な火祭りが
天を突く勢いで真夏の夜を彩ります。

横棒：最長部約8m
大柱：全長約20m
重さ約1t



若狭の夏を代表する一大イベント「若狭おおいのスーパー大火勢」は、佐分利地区で300年以上の伝統をもつ県指定無形文化財「大火勢」をモチーフにしたものです。平成6年、地域の活性化や都市圏との交流を目的に、町民有志による実行委員会ができ、以降、年を追う毎に盛大なものになり、今や松明行列への参加は5000人を数え、また、県内外から訪れる見物客も6万人を超えるまでになりました。

その準備は1年近く前から始まり、材料集めや手持ちの松明づくり、巨大な御柱づくりなど、おおい町の子どもから大人まで多くの人が携わります。また、当日の駐車場整理のスタッフも町民が担当するなど、まさに手づくりの町民総参加の祭りが町の活性化とPRに大きく貢献しています。



松明行列で使用する松明は、町民がボランティアで作成しています。



①花火 ②松明行列 ③YOSAKOI ④大火勢の裏側ツアー
⑤サマーワンダーランド ⑥ステージショー ⑦炎の太鼓 大飯ブレイズ

まだまだあるよ! おおい町の祭

スペシャルインタビュー
名田庄星のフィエスタ
実行委員会
岩崎 寛さん

若い世代が中心となって運営しています。まだ若い私たちにお祭りの開催を任せられることにとっても感謝しています。旧名田庄村(名田庄地域)の若者の皆さんにもっと参加していただいて、みんなで力を合わせて地域を盛り上げていきたいです。



星がテーマの夏祭り
名田庄
星のフィエスタ

8月中旬に開催される星がテーマの夏祭り。コンサート、土御門河臨祭に名田庄太鼓や花火、山にくっきりと星文字が浮かぶ幻想的なイベントなどが盛りだくさん。

スペシャルインタビュー
スーパー大火勢実行委員会
実行委員長
岸崎 圭薫さん

実行委員会では20歳代から70歳代の50人以上が活動しています。年に100回近く集まりますので大変ですが、幅広い世代が交流を楽しみながらやっています。そして、祭が大きな誇りであるのはもちろんのこと、とくにすごいと思うのは、参加することがメンバーの元気の源になっていることです。そんな元気な町民が増えれば町もさらに元気になると信じ、今後も頑張っていきたいと思います。





うみんぴあ大飯

海に集い、楽しみ、安らぐ。そしていつのまにか、みんながやさしい笑顔になれる。うみんぴあ大飯は、そんな「海が元気をくれるまち」を目指しています。



こども家族館

大型帆船での冒険や日本最大級のボールプールが楽しめるあそび探検ゾーン、ものづくりやクッキングが体験できる工房ゾーン、乳幼児連れの親子が安心して遊ぶくつろげる交流ゾーン、子どもたちを家族館の世界へと導くエントランスゾーンなど、遊び・学び・体験が盛りだくさんの体験型児童館です。



うみんぴあ大飯
紹介動画公開中！



https://youtu.be/UiTd-sCv_4
上記のQRコードに
アクセスしてみてください



道の駅 うみんぴあ大飯

海と山に囲まれた道の駅。新鮮な海産物や農作物だけでなく、お土産も充実しています。また、フードコートも人気が高く、観光施設の拠点にもなっています。



エルガイアおおい

エネルギーをテーマとした体験型ミュージアム。あの「銀河鉄道999」で有名な漫画家松本零士さんプロデュースのキャラクターとともにオペレーション作業を体験できるアトラクションもあります。



うみんぴあ大飯 マリナー

若狭湾のほぼ中心に位置し、日本海側では初となる海上係留施設を中心に、陸上艇置施設、クラブハウス、メンテナンス棟などが整備されています。また1年を通して穏やかな小浜湾内ではセーリングやクルージング等も楽しめます。



観光船「青戸クルージング」
ホテルから乗船場まで直結。
50分の海旅を楽しめます。



スペシャルインタビュー

ホテルうみんぴあ
料理長 栗田 秀敏さん

県外から訪れるお客様が多いので、地元食材を活用した料理を提供するため、地元食材をもっと探して、料理に取り入れていきたいです。また、町内だけではなく、若狭の食材を使った料理を広くPRし、食から「おおい町」、「若狭」を知ってほしいですね。そして、洋食の枠にとらわれず、高齢の方でも食べたいような、和食の調味料を使った、創作料理、創作洋食を提供していきたいと思っています。



ホテル うみんぴあ

海が目の前に広がる魅力的なリゾートホテル。全室オーシャンビューの宿泊施設であり、温浴施設やプール、レストランなど、おおい町ならではのホテルライフがゆったりと楽しめます。



まだまだあるよ！ おおい町の海

スペシャルインタビュー

おおいビーチクラブ 徳庄 継夫さん



毎月第2土曜日の午前中に活動しています。町内外の子どもたちやご家族が海や砂浜で楽しく、安全に遊んで交流ができればと考えて活動しています。風があればウインドやカイト、風がなければカヤックやサップと自然を感じながら、きれいな長井浜でビーチでの遊びを体験できます。毎月第2土曜日の午前中はぜひ長井浜へお越しください。

海辺の遊びを通じておおい町を知る おおいビーチクラブ



緑の自然輪

安倍家の別当石王丸が戦に敗れ逃げ延びた時、滝壺より薬師如来が現れ、逃げ道を指し示したという不思議な伝説が残る滝です。若狭地方最大スケールの滝で落差は30メートル。雪解け時には勇壮かつ迫力満点の瀑布となります。夏でも涼しく、その水は水晶のように透き通っています。

野鹿の滝

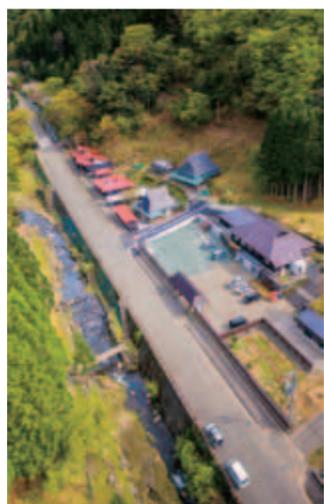
プレーパーク大飯

プレーパーク大飯はいろんなスポーツが楽しめる総合スポーツ公園です。フィットネスジムや合宿ができる宿泊施設が完備されており、備品なども充実しているので手ぶらで来ても十分に楽しめます。



ハケ峰家族旅行村

ハケ峰家族旅行村は深い緑の森林が広がる恵まれた自然環境で森林浴に最適です。「森林浴の森・日本100選」に選ばれた自然環境と調和したレクリエーション施設や、古民家、バンガロー、オートキャンプ場もあります。平成29年4月に施設の一部をリニューアルしました。



きのこの森

平成29年4月にリニューアルした『きのこの森』は、四季折々に異なった表情を見せてくれる雄大な自然に包まれた、おおい町の特産品『きのこのテーマパーク』子どもから大人まで家族みんなが楽しめる自遊空間です。



赤礁崎オートキャンプ場

美しい小浜湾を望む大島半島の海沿いにある絶好のロケーションで楽しめるオートキャンプ場です。ログハウスもまた、日帰りでも楽しめるバーベキューハウスも完備。近隣には、釣りを楽しめる、あかぐり海釣り公園もあります。



あかぐり海釣り公園



スペシャルインタビュー



NPO法人 森林楽校・森んこ
萩原 茂男さん

楽力(人生を楽しくいきいきと生きる力)を理念として活動しています。野外活動を通じて、自ら感じ⇒考え⇒気づき⇒行動することを基本に、教えない教育を目指しています。十数年活動できたことをありがたく思っています。今後も、老左近(無住集落になった里山)を拠点に里山の生活文化を守り、育て、伝える活動を続けていきます。平成28年より、「oisako夢充集楽プロジェクト」を立ち上げ、未来に魅力を感じれる田舎づくりという大きな夢に向かって活動を始めました。



まだまだあるよ! おおい町の自然

スペシャルインタビュー



名田庄ホテルの里保存会
菅原 浩さん

横谷ホテルの里や横谷五溪の滝の整備、イベント「ほたる狩り」の開催などを行っています。ホテルを見に来た方からの歓喜の声を聞くとやってよかったと実感します。環境を守り、町内外から訪れた人々に、名田庄の自然のよさを知ってもらい過疎地の活性化につなげたいです。

名田庄ホテルの里保存会



おいしい町
特産品
食の輪
ぼたん鍋

ぼたん鍋

名田庄周辺の山でとれる猪の肉は、赤身と白身のバランスが最高で、味噌仕立てにして地元の野菜と一緒に煮込みます。猪の肉は煮れば煮るほど風味が増して、柔らかく、歯切れもよくなるのが特徴です。



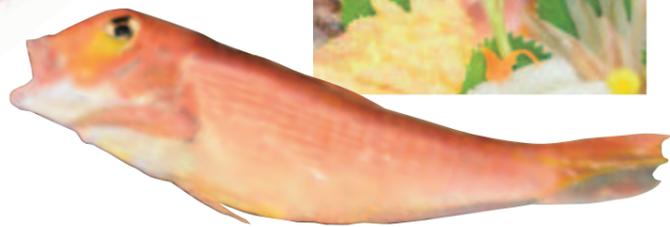
滝水ひめ
 父子区にある「不動の滝」の地下水を使用したナチュラルミネラルウォーター。「滝水姫(たきみひめ)」は、その昔、天智天皇(661、671)の頃、政変を逃れ大内から御くだりになり、

じねんじょ
 栄養、風味、粘り共に最高の品質を誇る名田庄じねんじょは、昼夜の気温差がある名田庄地区の気候にあつた特産品です。

錦賞 しいたけ
 栄養分が入ったおが粉を圧縮した菌床が2個入のセット。しいたけを自分で育てて、とれたてを食べられます。



若狭ぐじ
 若狭湾で獲れるアカアマダイは、「若狭ぐじ」と呼ばれ、和の最高級食材。暖流と寒流が交わる若狭湾で育ったその身は、淡白で香りも良く、京料理では欠かせない食材となっています。



まだまだあるよ! おおい町の食・特産品



スペシャルインタビュー
 食いきいき隊
 新谷 真由美さん

夏休み健康教室や男性料理教室などで、食事の大切さや地域に伝わる伝統料理をお伝えし、町民の皆さんの健康を食の面からサポートしています。伝統料理を広く伝え、食を通じた健康寿命を延ばしてほしいと願っています。健康は「食」が大切です。私たちの活動を通じて、町民の皆さんが健康でいきがいある暮らしを送れるようお手伝いしてまいります。



スペシャルインタビュー
 島ジャコ倶楽部
 子末 とし子さん

「地元の魚に付加価値を付け、女性パワーで特産品をつくろう」おおい町の大島漁協女性部員たちのこんな声が、島ジャコ倶楽部発足のきっかけ。魚をすりつぶして平らにして揚げた練り製品「しまジャコ天」を看板商品とし、地元の魅力を全国に発信しています。漁村活性化と漁業発展のために活動したいです。若狭の魚はおおい町の笑顔・元気の源です。



スペシャルインタビュー
 たまたまぼこ
 長井 珠江さん

へしこづくりや、イベントへの出店、干物・わかめ等の海産物加工などを行っています。設立当初はみんなの意見をまとめることが大変で、若い人と年輩の方との考え方の相違もあり、苦労もありました。家族の協力があって活動できていることに感謝しています。グループの家族同士も仲よく、人との交流を楽しみながら活動しています。



おおい町
紫糸の歴史の輪文化



名田庄は暦道・天文道・陰陽道と深い関わりを持つ地であり、日本の天文暦学の祖安倍晴明の子孫が応仁の乱の戦火を逃れ、この地に移り住んだことから陰陽道との関係がはじまりました。校倉造りの暦会館は、昔の天文器具や古い時代の暦など、暦に関する資料が見られるユニークな資料館です。

暦会館



意定寺
十一面
千手観音立像

木造の十一面千手観音立像は素地の木目が美しい模様を描いています。重要文化財。

常禅寺
不動明王坐像

平安時代の作とされる不動明王坐像は重要な文化財。別名波切不動と呼ばれ漁師たちに信仰されています。

清雲寺
毘沙門天立像

鎌倉時代につくられた勇壮な毘沙門天立像は鬼気迫る厳しい表情が特徴。重要文化財。

長楽寺
阿弥陀如来坐像

町内で最も大きな彫刻仏で当時の色彩が鮮やかに残っています。

まだまだあるよ! おおい町の歴史・文化

スペシャルインタビュー

おおい町フィルムコミッション
井尻 雅己さん



福井工業大学の教授や若手映画監督等を招き、映像制作の勉強会、また、滋賀ロケーションオフィスに赴き、ロケ誘致の研修会等を行っています。特に、平成28年度においては、町民の皆様のご協力により制作した「おおい町」のCMが沖縄で開催されたJIMOTO CM COMPETITIONにおいてグランプリを獲得しました。今後も、町民が団結して作り上げていける企画をしていきたいです。



スペシャルインタビュー

町を楽しむ会
福本 千枝子さん

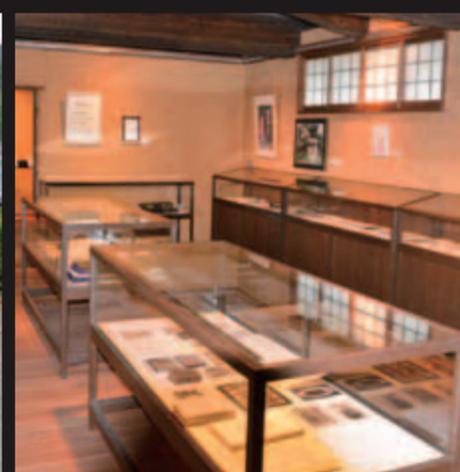
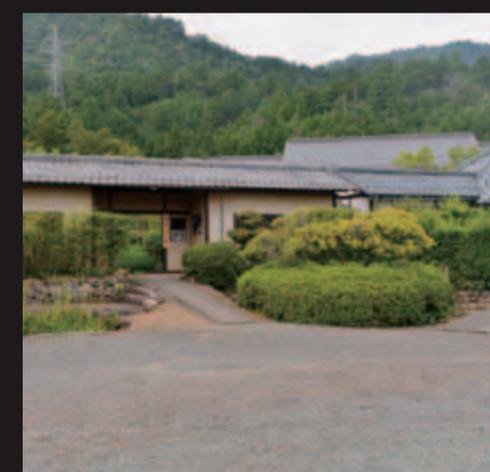


人と人の交流「人が人を楽しむ」ための事業を計画して実施しています。町を知り町を楽しみながら情報発信を行い、基本的に月1回の定例会を開き、企画・準備・実行・振り返り・記録などの運営を行います。イベントの開催などでできた人の繋がり(ご縁)を大切に、次に活かしていきたいです。



若州一滴文庫

郷土の作家水上勉氏が主宰する竹人形文庫の劇場と、蔵書や絵画、生原稿などを収蔵しています。茅ぶきの和風建築や庭園の落ち着いた風情の中で幻想的な竹人形や水上勉氏の文学に触れると、竹が生み出す独特の世界に思わずひきこまれます。



おいの輪

まだまだある

おい町にはまだまだ
素敵ところが盛りだくさん！

大自然の眺望を楽しみながらお湯に浸かれる憩いのスペース展望浴場「湯つたり温泉」のほか、カラオケルームや喫茶室も完備しています。左右のホールは、それぞれが用途別にご使用いただける交流スペースになっています。

湯つたり、スッキリ！

あみーしゃん大飯



町営ホテルで星に願いを
ホテル流星館

名田庄には、都からも近いせいか、暦を司る安倍家が代々住んだことが古文書にいろいろ出てきます。歴史的にも星が美しくきれいに見えるところなのでしよう。流星館は、そんな歴史と自然を背景に名付けられた、快適なホテルです。

物産館、休憩所が
立ち並びオアシス
道の駅「名田庄」

道の駅グランプリ2000で、機能的で周りの景観と調和のとれた建築物として評価され、アメニティ部門総合デザイン賞を受賞しました。

懐かしいSLや、鉄道パノラマ
情報交差点ぽーたる



夏の遊び場
海水浴場

遠浅の人工海岸や波の影響を受けにくい海岸、若狭湾を一望できる海岸など、おい町の海水浴場は魅力がいっぱいです。

長井浜海水浴場



袖ヶ浜海水浴場



塩浜海水浴場



米こうじみそ

地元のコシヒカリのこうじと大豆を材料に、昔ながらの手づくり・無添加のこうじみそです。



スキットさわやかなむ梅ゼリー

おい町産完熟梅をピューレ状にした、口当たりなめらかでさわやかな味のゼリーです。

若狭パール

おい町の海でとれる若狭パール。美しい輝き、かわいらしいデザインが好評です。



へしこ風味 ポテトチップス

若狭の郷土料理「へしこ」の風味を生かしたポテトチップス。クセになっちゃう不思議な美味しさです。



名田庄漬

名田庄地区で育まれた新鮮な野菜を使った漬け物です。合成保存料は使用せず低塩分です。



ふくおい最中

若狭かかれいの形のかわいい最中に、2種類の餡を挟んで楽しめる手づくり最中です。

今谷焼

おい町の陶製品。土の温かみをお土産にどうぞ。



竹炭、木酢液

炭は不思議な力を持っており、調湿・脱臭炭としてだけでなく炊飯や入浴、皮膚病、無農薬有機栽培へも効果を発揮します。



まだまだある
おいの特産品

知りたい！

おい町の特産品

詳しくはココでチェック！ <http://shop.wakasa-ohi.co.jp/>

こちらのQRコードからもアクセスOK!



水無月祭 (かわそまつり)



スペシャルインタビュー

本郷青年義団
荒木 健さん

地域の皆様には寄附や休憩所の設営・運営等、多大な協力をいただいております。この水無月祭をもっと、盛り上げていきたいです。昭和の匂いがする、古き良き祭りであると感じています。同世代の人が集まるきっかけでもあり、かわそさんのために、地元に戻り、友人と会う人もいます。地域への愛情を育むとともに、ふるさとのよさを再認識できるまつりです。

人と人の笑顔がつながる
 まちの宝を守り育てる
 明るく住みよいまち

PART 2

笑顔つながる
 希望輝くまち



おい町 イベントカレンダー

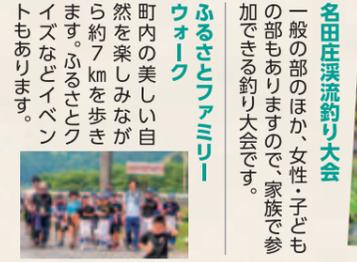


おい町の季節を彩る様々なイベント

4月 **ごんせー!**
フェスティバル
 大人気のうみりんドームをはじめ、ふれあい動物体験や子ども工作コーナーなど多彩なイベントが盛りだくさんです。



5月 **名田庄溪流釣り大会**
 一般の部のほか、女性・子ども部もありますので、家族で参加できる釣り大会です。



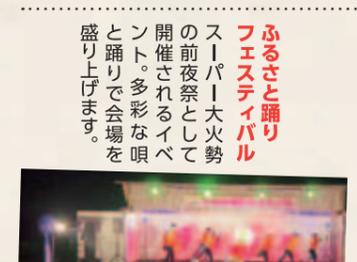
6月 **さざえ祭り**
 さざえは夏ではなく、6月に食すのが一番。大島地区で獲れた新鮮なさざえをご堪能ください。



7月 **浜開き**
 期間中の海水浴客の安全を願って安全祈願が行われ、海水浴シーズンの到来を告げます。



8月 **若狭おおいのスーパー大火勢**
 燃え上がる大松明が勢いよく回転し、夜空を赤く染める炎の祭典です。



手こぎ舟の通し合い
 かつて大島地区の交通手段だった手こぎ舟による競漕を再現したイベントです。



9月 **おい健康マラソン大会**



町内外から集まった参加者たちが、里山を駆け抜け、おい町の風景を楽しみながら健脚を競います。



10月 **帰郷忌**

故水上勉氏を偲ぶ日として設けられた日。文学の世界を感じ催し物です。



11月 **じねんじょまつり**

町の特産であるじねんじょやじねんじょ入りそばの販売など、地元の人を楽しませることができ



12月 **スーパー玉入れ選手権**

家族や友人のみんなで、真剣に玉入れしませんか? 案外難しいスーパー玉入れ。子どもから大人まで楽しめる大会です。



1月 **書初め大会**

新年を迎え、日頃の成果を試す書初め大会。真剣な面持ちで「書」に挑みます。みんな上手く書けたかな?



2月 **暦の里 雪灯籠まつり**

寒い冬は雪を使って楽しむませんか。雪灯籠の優しい灯りが幻想的な世界を創ります。



暦イベント
 日本伝統文化を観るタペとして、暦フォーラムや古い講演、伝統芸能の披露などが行われます。

きのこまつり
 シイタケやきのこの佃煮などの販売、炊き込みご飯やきのこの汁の振る舞いなど、きのこづくしのイベントです。

町民文化祭



消防出初式
 1年間の無火災と町民の皆様への安全・安心を願うとともに、訓練や行進を通じて災害に立ち向かう消防団の勇姿を披露します。



おい町未来創生戦略

おい町は、県内トップクラスの出生率の高さを誇っていますが、人口は減少傾向にあり、高齢化の一層の進行が予想されます。若者が地域社会の担い手として生きがいを持って、さらに活躍できる仕組みづくりが求められます。

おい町人口ビジョンの方向性
「おい町人口ビジョン」では、2060年における人口について、現状に基づく推計から約1,800人増加させ、約5,800人の維持を目指します。本戦略の推進により、町の活力を向上させると同時に「合計特殊出生率の向上」「転出の抑制・転入の増加」を促進し、人口ビジョンの達成に向けて取り組みます。

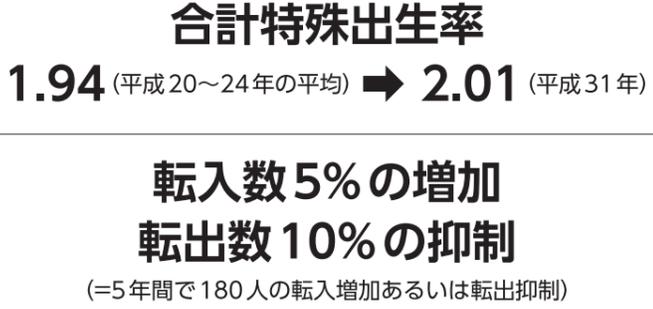
若者から見たおい町
「おい町の未来を若者で考えるまちづくりワークショップ」より

本戦略及び第2次おい町総合計画策定に向けて開催した「おい町の未来を若者で考えるまちづくりワークショップ」において、町の未来を担う若者の視点からさまざまな意見が寄せられました。おい町のいいところについては恵まれた自然や田園風景、地域のつながりや人柄についての意見が多くありました。一方、課題については、交通の利便性に関することや都市基盤・雇用についての意見が多くありました。

目指すべき将来像と戦略の全体像

おい町の未来のためには、未来の担い手となる若い世代の活躍が必要不可欠です。活力みなぎる若者をさらに増やし、活躍できる舞台づくりを進めていく必要があります。そのためには、若い活力に共感できる「若い想い」を集め、行動に移していく必要があります。本町で日々の出来事に感動し、感謝し、新鮮な気持ちで毎日を過ごしている人は、年齢を問わずみんなが「若い想い」を持った人です。このような「若さ」をつなげ、明日に向かって前向きに取り組むことが「未来をつかむおい町」につながると考えます。

成果目標



**戦略1「女性活躍」
若年女性の活躍！雇用創出戦略！**
本町の恵まれた地域資源を活用し、女性を対象とした第1次産業の担い手育成及び雇用の場の創出を図ることで、女性の活躍を推進・心援します。

**戦略2「若者仕事」
若者と仕事を創り出す！雇用創出戦略！**
本町の恵まれた地域資源を活用すると同時に、若者に的を絞った雇用の創出及び産業振興を図り、町の活力を一層向上させます。

**戦略3「若者活力」
「若さ」集結！みなぎる活力創生戦略！**
「若い想い」を持った人を町内外問わず集め、まちづくりに主体的に取り組むことができる仕組みづくりを推進し、町外からもアイデアを募り、あらゆる視点から町の活力を見出し出していきます。

**戦略4「活力生活」
活力ある暮らし！生活基盤整備戦略！**
本町の恵まれた子育て環境を積極的に発信すると同時に、本町への移住を希望する方の不安を軽減し、移住・定住の促進につなげます。

**戦略5「広域連携」
広域連携！共通課題解決戦略！**
厳しい財政状況においても持続的に発展できる地域の実現を目指して、嶺南地域全体の課題について、嶺南広域行政組合及び嶺南地域広域行政推進委員会を中心に、課題解決に対する検討を行います。

5つの戦略により将来像を達成!!

将来像 みんなの「若さ」でつなぐ、未来をつかむおい町



おおい町総合計画

まちづくりの基本理念

これからのまちづくりは、住民と行政が互いに手を取り合い、まちづくりに取り組むこと、地域の宝を磨き発信し交流すること、住民同士が共感し次代へ暮らしをつないでいくことが重要になります。それらを踏まえ、今後10年のおおい町のまちづくりについて3つの基本理念に基づき、まちづくりを展開していきます。

協創・挑戦

輝く笑顔で支え合い、様々な活動を展開しながら、素敵に満ちたまちづくりに挑戦します。

将来像

輝く笑顔がうみだす希望
情熱よせ合うふるさと“おおい”
みらいへの贈物 魅力創生を
あなたとともに

共感・躍動

人々が共感し合い、自然と共存することで織り成す、躍動する暮らしを次代へつなげます。

発信・交流

自然、歴史や文化等、地域の宝を磨き、発信し、響き合う交流を活性化することでにぎわいを創出します。

人と自然がおりなす 夢つなぐまちづくり

磨く地域の宝 つむいで響く賑いのまちづくり

※…住民、企業、各種団体や行政等が協力して課題を解決する仕組みに、新たな価値を創出すること。

基本目標 01

ふるさとへの愛と誇りを育み、豊かな交流で向上する町

町の豊かな自然に囲まれて、健やかでたくましい心と生きる力を備えた人、そして「ふるさと“おおい”」に誇りを持ち、愛する人を育みます。また、町の特色を活かしたスポーツ・文化・芸術の振興を図ることで、地域への親しみをより一層高めています。さらに、住民同士の交流はもちろん、住民と行政による交流や協創も一層活性化させ、連携を通じて課題を解決し、町全体がともに向上できる町を目指します。

基本目標 02

地域の宝を磨き上げ、産業の活力創出に取り組む町

町の宝である恵まれた地域資源を活かし、磨き上げることで、農林水産業をはじめとする雇用を生み出します。また、進展する高度情報化社会に対応した産業の創出も視野に入れた取組を推進し、産業の活性化を図ります。さらに、観光レクリエーション産業の振興を図ることで、豊かな交流とそれに伴う機会を生み出し、一層の活力創出に取り組む町を目指します。

基本目標 03

心豊かにいきいきと、育ちと暮らしを支え合う町

町に住む誰もが、住み慣れた地域の中で地域社会の一員として、心身ともに健康で充実した生活を送ることが出来る地域社会の実現を目指します。また、地域ぐるみで支え合うまちづくりを推進し、安心して子どもを産み育てられる環境をより一層充実させ、子育て世代をはじめとする、あらゆる世代が住み続けたいと思う町を目指します。

基本目標 04

豊かな自然を大切に、暮らしやすさと安全・安心を進める町

住民の生活を支える交通基盤を維持・充実させるとともに、情報通信基盤のさらなる充実を進め、快適な環境を整備します。また、地域防災及び防犯活動の活性化と適正な土地管理の推進を図り、住宅や住環境の整備、環境問題に取り組み、安全・安心なまちづくりを進めます。さらに、町の豊かな自然環境を次代へ繋ぐための意識啓発及び活動、美しい景観づくりを推進します。

基本目標 05

時代の変化に対応し、みんなで支え続ける町

限りある経営資源で、転換期にある激しい社会潮流や多様化かつ高度化する住民ニーズを的確に捉えた行政経営を推進するために、行政の経営力を強化します。さらに、住民と行政の協創を推進し、多様な連携を行いながら、時代を生き抜く持続可能な行政経営を展開する町を目指します。

基本目標 06

まちの個性を大切に、広域連携を推進し、可能性を高める町

多様化かつ高度化する住民ニーズや厳しい財政状況においても、持続的に発展できる地域を目指して、嶺南地域をはじめとする広域的な連携を推進します。また、広域における取組の可能性をより一層広げていきます。さらに、まちの個性と広域における役割を明確にし、より可能性を高めていく町を目指します。

基本目標

01

ふるさとへの愛と誇りを育み、豊かな交流で向上する町



(1) 住民と行政の協創によるまちづくりの推進

まちづくりの主役は住民一人ひとりであることを踏まえ、協創によるまちづくりを進めます。また、町の将来を担う若者が、まちづくりに積極的に取り組める体制を整備し、住民主体のまちづくりを活性化します。



(2) 生涯学習の充実

住民一人ひとりが自己を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、あらゆる学習機会を充実します。また、教育機関や関係団体との連携を図り、生涯学習の成果を活かす機会を拡充します。

(3) スポーツの振興

身近にスポーツやレクリエーションを楽しみ、健康づくりや仲間づくりができるよう、スポーツ活動を充実します。また、体育施設や公園等の

活用に取り組むとともに、スポーツを通じた交流人口の増加を図ります。

(4) 文化・芸術の振興

住民が主体的に文化・芸術にふれあう場を充実します。また、ふるさとの芸能や伝統文化の保存、継承、創造を図るとともに、町の文化財や歴史を積極的に発信し、文化的交流を進めます。

(5) 学校教育の充実

基礎的な知識・技能の習得はもとより、思考力・表現力を育成し「確かな学力」や「生きる力」を育みます。また、体験・交流活動により、地域を愛する豊かな心を育成するとともに、体力の向上を図ります。さらに、ICT機器のさらなる活用を図り、特色ある教育を推進します。



(6) 若者の定住促進

町への愛着を育み、町内への移住・定住やUターンを促進します。また、町出身学生への支援や町出身者の交流を図るとともに、町の優れた子育て施策等を広くPRし、魅力あふれる「おい町」を目指します。

(7) 青少年の健全育成

家庭、学校や地域社会等の連携を強化し、幅広い視野と多様な価値観を養います。また、国際交流や地域間交流を活性化し、幅広い分野で活躍できる資質・能力を育みます。さらに、青少年教育、指導活動や相談事業を充実し、問題の早期発見・指導を行います。

(8) 地域教育の推進

家庭、学校や地域の教育力を連携し、地域が一丸となった地域教育を推進します。また、新たなリーダーの発掘・育成を進めるとともに、お互いの人権を尊重し、男女がともに活躍できる地域を目指して取り組みます。

基本目標

02

地域の宝を磨き上げ、産業の活力創出に取組む町



(1) 農林水産業の振興

(1-1) 農業の振興

農産物のブランド化や販路開拓を支援するとともに、農産物の高付加価値化を推進します。また、担い手の確保・育成・支援に取り組みます。さらに、農業生産環境の整備を進めるとともに、都市との交流を活性化し、魅力を発信します。

(1-2) 林業の振興

林産物や搬出材の販路開拓等を支援し、森林経営の収入安定・増加を図ります。また、森林の有効活用を進め、公益的・多面的機能の維持を図ります。さらに、特産物である菌床シイタケ・木炭のブランド化や高付加価値化に取り組む、生産者の育成・支援を行います。

(1-3) 水産業の振興

水産物のブランド化、加工品開発や販路開拓を支援するとともに、水産物



(2) 商工業の振興

経営環境の整備と経営基盤の強化に取り組む、中小企業の育成支援を行います。また、人材や後継者の確保・育成・支援に取り組むとともに、商工会活動を支援します。

(3) 観光レクリエーション産業の振興

町の観光資源を磨くとともに、個性を打ち出し、「おい、らしさ」を創出します。また、広域観光を推進するとともに、観光情報の発信を強化し、交流人口の増加を図ります。

(4) 地域資源を活用した新規産業の創出

町の恵まれた自然環境をはじめとする地域資源を活用し、新規産業の創出に向けた取組を推進します。また、人材

(5) 産業団地をはじめとする企業誘致及び産業振興

町の有利で特色ある立地条件を活用した産業団地を造成するとともに、企業誘致を進め、雇用の拡大を図ります。



(6) 原子力関連産業の振興

原子力発電所と共存・共栄する町として、国・県の原子力行政の動向を注視した取組を推進します。また、新たなエネルギー産業や研究機関との共存を視野に入れた取組を行うとともに、将来的な廃炉対策を見据え、研究・検討を進めます。



基本目標
04
豊かな自然を大切に、
暮らしやすさと
安全・安心を進める町

基本目標
03
心豊かにいきいきと、
育ちと暮らしを
支え合う町



(1) 適正な土地管理と住環境の整備
長期的視点による適切な土地管理を推進するとともに、快適な住宅や住環境の整備に取り組みます。また、若者の移住・定住を進めるとともに、空き家の適切な管理・利活用を推進します。

(2) 環境と調和した暮らしの推進
環境に優しい暮らしを呼びかけるとともに、廃棄物の減量化や資源化を図ります。また、上下水道の維持管理や改修等に取り組むとともに、廃棄物処理施設の適正な運用及び広域化を進めます。

(3) 安全・安心な暮らしの確保
地域ぐるみでの防災・防犯活動を呼びかけ、安全・安心な暮らしの確保を目指します。また、交通安全意識や交通マラルの向上に取り組むとともに、必要に応じた交通安全施設の整備を行い、地域と行政

(1) 健康増進対策の推進
自らの健康は自らの手で維持・増進していく意識の向上に取り組むとともに、家族ぐるみ、地域ぐるみの健康づくりを推進します。また、健康管理や疾病予防対策の充実を図るとともに、生涯にわたる食育に取り組めます。

(2) 医療体制の充実
医療体制やサービスの充実を図るとともに、増大・多様化する医療ニーズに適切に対応します。また、地域に根ざした包括的な医療サービスの充実に取り組めます。

(4) 地域防災対策の推進
総合的な防災訓練を実施するとともに、災害時に備えた基盤づくりを進め、防災意識の向上に取り組めます。また、災害時における住民への連絡手段や避難体制等を確立し、その周知を徹底します。さらに、原子力発電所立地地町としての安全体制や緊急連絡体制の強化を図ります。

(5) 交通体系及び基盤の充実
住民の利便性を考慮した公共交通サービスを充実するとともに、広域的な連携・交流の活性化を図ります。また、町道の整備・維持を行うとともに、国道・県道及び舞鶴若狭自動車道の機能拡充等について関係機関に要請し、整備を進めます。

(3) 子ども・子育て支援と児童福祉の充実
子どもが健やかに育つ仕組みづくりを推進するとともに、子育てに積極的に取り組める環境づくりを進めます。また、子どもや保護者の視点に立ち、家庭・地域・行政等が一丸となった子育て支援に取り組めます。

(4) 高齢者福祉の充実
高齢者が住み慣れた地域において役割と生きがいを持った生活ができるよう、地域社会全体で支え合う体制の整備を進めます。また、介護予防を積極的に行い、心身の健康維持・増進のための活動を拡充します。

(6) 情報通信基盤の活用
高速通信網を活用し、行政サービスや住民の利便性向上を図ります。また、情報発信力を強化するとともに、企業誘致、観光や福祉等、あらゆる分野において情報通信基盤を活用します。

(7) 自然環境の保全と景観づくりの推進
自然環境や美しい景観を守り、育てていく意識の向上に取り組むとともに、環境保全を推進します。また、自然との共存を図った景観づくりに取り組めます。

(5) 障害者福祉の充実
障害のある人が生きがいを持ち、住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう、社会参加の促進や就労支援等に取り組めます。また、各種団体や事業等の連携により、障害の早期発見・早期支援に取り組むとともに、自立した生活への支援を行います。

(6) 地域福祉活動の推進
高齢者や障害のある人等を地域全体で支え合う仕組みづくりを行い、誰もが安心して生活できる地域社会を構築します。また、地域福祉の担い手の育成・支援を行い、住民が主体的に活動できる環境を整備します。

基本目標

05

時代の变化に
対応し、みんなで
支え続ける町



(1) 町政への住民参加の促進

住民に開かれた行政を目指し、積極的な広報・広聴活動や情報提供を行います。また、あらゆる世代が住民自治の意識を共有し、積極的に参加できる住民参加型行政に向けた取組を進めます。



(2) 行財政運営の効率化

住民ニーズの複雑化・多様化等に的確に対応するため、行財政施策の選択と集中、見直しと改善を常に行います。また、中長期的な展望を視野に入れ、安定的、弾力的かつ効率的な行財政運営を実行します。

(3) 弾力的な行政機構の構築及び職員の資質向上

常に事務事業の見直しと組織の活性化を図り、一層効率的な行政体制を構築します。また、職員の資質向上に向けて人材育成を推進し、適切な組織管理、人事管理を行います。

基本目標

06

まちの個性を大切に、
広域連携を推進し、
可能性を高める町



(1) 広域連合の設立推進

嶺南地域における多様な広域的行政課題に対応できる広域連合を設立します。また、新たなニーズに対応する事務の広域連携を進め、財政の効率化や住民サービスの上昇を図り、嶺南地域の競争力を強化します。

(2) 他市町等との連携

行政区域を越えて対処すべき課題の解決に向け、さらなる広域行政による連携を進めます。



おい町 政策の輪

おい町 議会

おい町議会は、選挙で選ばれた議員で構成し、町民の意見を町政に反映する為、予算や条例など、町民生活の色々な問題について審議しています。

町議会の仕事

議決、検査・調査・監査請求、意見書の提出などを行っています。町議会には、議決権、調査権、監査請求権などの権限が与えられており、それに基づいて次のような仕事を行っています。

● 議決

町議会の最も基本的な仕事で、条例や予算を定めたり、決算を認定したり重要な契約や財産の取得や処分決定などを行います。

● 検査・調査・監査請求

町の事務に関する書類を检查したり、関係者の出頭・証言、記録の提出を求めたり、監査委員に監査を求め、町民の代表として町政を監視します。

● 意見書の提出

町民生活に関わりの深い事柄について、その実現を図るため、国や県などに議会の意志をまとめた意見書や要望書を提出します。

● 選挙・同意

議長・副議長や選挙管理委員等を選挙したり、町長が副町長・監査委員等を選任する際に、同意を与えます。

● 請願と陳情

町政について意見や要望がある

ときには、どなたでも請願や陳情の文書を直接町議会に提出することができます。

町議会議員の紹介があるものを請願、ないものを陳情といえます。町議会に提出された請願は、委員会で審査した上で、本会議で採択するかどうかを決定します。採択された請願は、必要に応じて町長などに送付し、その実現を図ります。

陳情についても、議長の判断により、請願書と同様に取り扱われます。

町議会の会議

町議会には、定例会と臨時会があります。定例会は、年4回(3・6・9・12月)開かれます。臨時会は必要に応じて町長が招集します。また、議長が議会運営委員会の議決を経て町長に請求したときや、議員定数の4分の1以上の議員から町長に請求したときは、町長は臨時会を開かなければなりません。

〔定例会の流れ〕

● 本会議開会
議長の開会宣言で活動が始まります。

● 一般質問

発言を通告した議員が町政全般について質問し、執行機関の説明

を求めます。

● 提案理由説明

町長及び議員が提出した議員が議案の提案理由を説明します。

● 委員会付託

特に慎重に審査を進める必要がある議案等については、委員会に付託し審査します。

● 本会議討論

議案について、賛成・反対の意見が述べられます。

● 議決

議案について、賛成・反対の表決を行います。

● 閉会

議長の閉会宣言で活動が終了します。

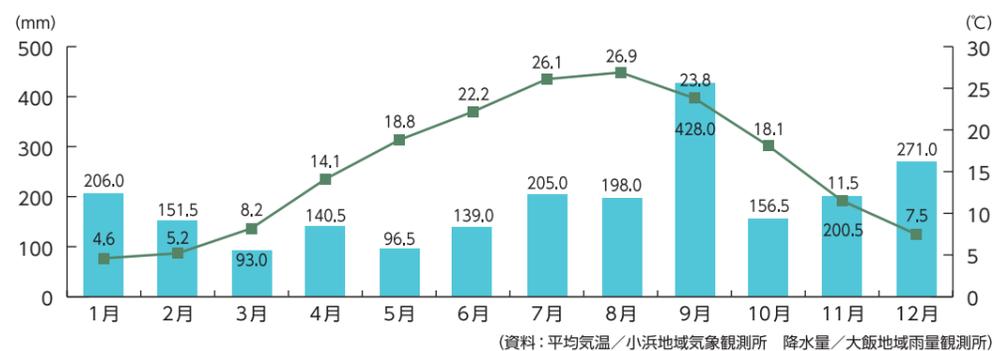
〔本会議〕

本会議は、議員全員で構成され、町議会の意思を決定するほか、町政全般について質問を行う会議です。町議会に提出された議案や、町議会としての意見表明などの可否は、最終的にはすべて本会議において決められます。本会議を開くには、定数の半数以上の議員の出席が必要であり、町議会の意思は、原則として出席議員の過半数の賛成によって決定されます。

■年別降水量



■月別平均気温・月別降水量 (平成28年)



■会計別当初予算額 (平成28年度)

平成28年度当初予算額		(単位: 千円)
一般会計	10,493,000	
特別会計		
後期高齢者医療事業	85,900	
国民健康保険事業	1,072,893	
国民健康保険診療事業	100,914	
介護保険事業	926,665	
介護サービス事業	5,138	
簡易水道事業	228,719	
農業集落排水事業	400,331	
特定環境保全公共下水道事業	199,542	
合計	13,513,102	

(資料: 総務課)

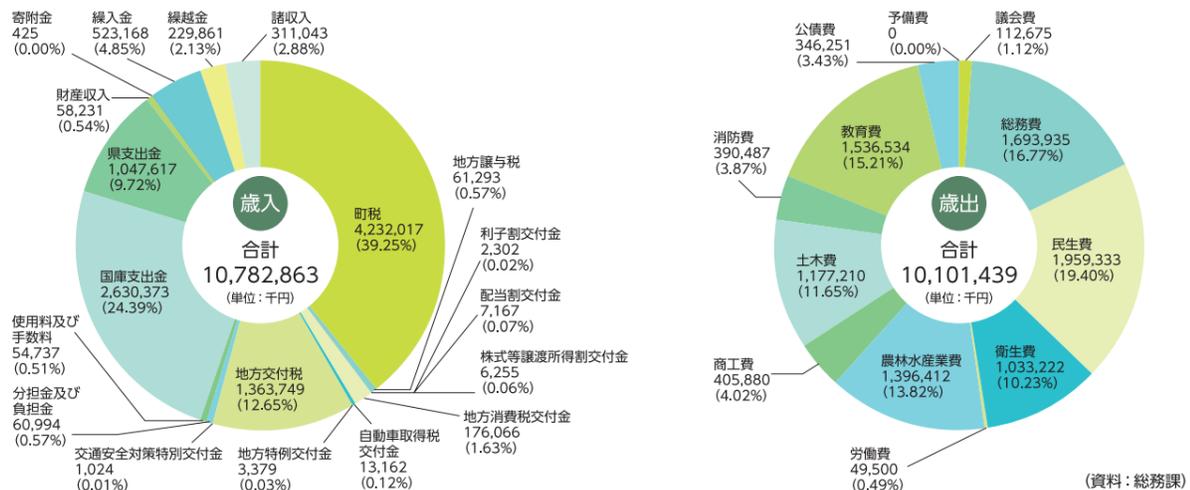


■町税の現状 (年度別・現年度分調定額)

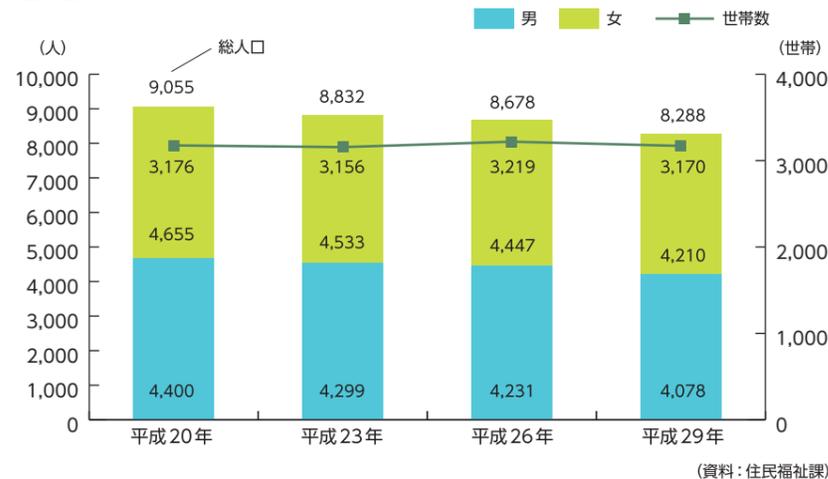
年度	町民税	固定資産税	軽自動車税	町たばこ税	合計
平成25年度	505,593	3,500,321	20,553	51,495	4,077,962
平成26年度	513,630	3,486,608	21,005	48,702	4,069,945
平成27年度	533,685	3,630,668	21,130	46,460	4,231,943
平成28年度	516,366	3,677,279	24,938	42,961	4,261,544

(資料: 税務課)

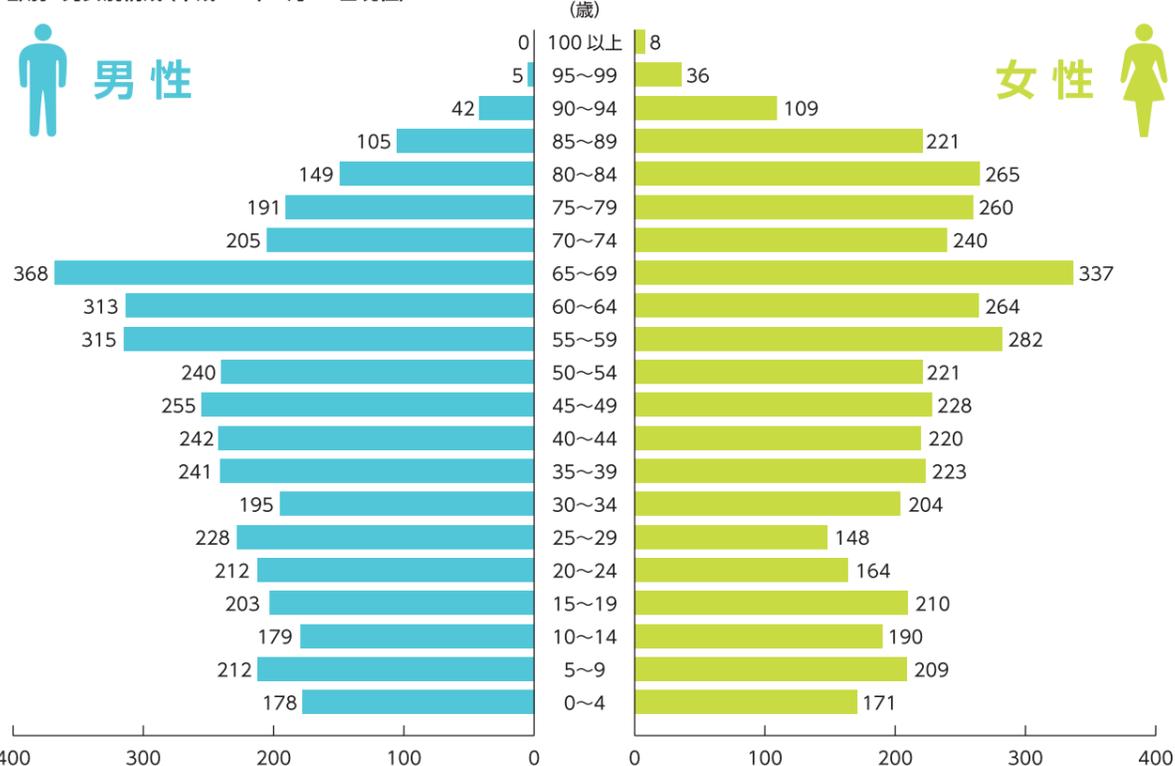
■一般会計決算状況 (平成27年度)



■人口・世帯数の推移



■年齢別・男女別構成 (平成29年3月31日現在)



■人口動態

年度	自然動態			社会動態			婚姻	離婚
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減		
平成25年	83	100	-17	162	188	-26	67	8
平成26年	63	125	-62	198	231	-33	74	4
平成27年	76	116	-40	154	197	-43	53	6
平成28年	61	121	-60	143	209	-66	45	6

(資料: 住民福祉課)

ACCESS



電車をご利用の場合

京都から約2時間、大阪から約2時間30分、名古屋から約3時間

自動車をご利用の場合

京都	15分	沓掛IC	京都縦貫自動車道	50分	綾部JCT	舞鶴若狭自動車道	25分	大飯高浜IC(おおい町内)	10分	おおい町(本郷)	約1時間40分
大阪	40分	吉川JCT	中国自動車道	80分	大飯高浜IC(おおい町内)	10分	おおい町(本郷)	約2時間10分			
名古屋	70分	米原JCT	北陸自動車道	40分	敦賀JCT	舞鶴若狭自動車道	50分	大飯高浜IC(おおい町内)	10分	おおい町(本郷)	約2時間50分

春



夏



秋



冬



▲おおい町の四季紹介動画公開中！
上記のQRコードにアクセスしてみてくださいね～！

おおい町 タウンMAP

おおい町の位置

おおい町は、福井県の南西部に位置し、西は大飯郡高浜町、京都府綾部市、南は京都府南丹市、東は小浜市、滋賀県高島市に接しており、京都府との県境を水源とする佐分利川と南川が流れ、小浜湾に注いでいます。町域の9割以上を占める山林と、若狭湾国定公園に面し、美しいリアス式海岸の海を中心とした自然に囲まれた町です。大島が青戸の入り江を挟んで北に位置しており、青戸の大橋によって結ばれています。

居住地は、佐分利川沿いから海岸部に向かって開けた平野、南川とその支流沿いの平地、大島の小浜湾の平地にあります。





町章

おおい町のイニシャル「O」をモチーフにデザイン。円は和と団結、ブルーウェーブは旧町村の融合を表しています。

(平成20年3月3日制定)



町の花「さくら」

まちの至るところで見られる桜の美しさは、心やさしく思いやりにあふれた町民性を表す存在となっています。

(平成20年3月3日指定)



町の木「やまもも」

やまももの果実や樹皮は幅広い利用が可能なことから、自然を生かすまちづくりのシンボルツリー的な存在となっています。

(平成20年3月3日指定)

おおい町勢要覧

【発行年月】平成29年6月

【発行】福井県おおい町

〒919-2111

福井県大飯郡おおい町本郷第136号1番地1

TEL.0770-77-1111 FAX.0770-77-1289

【URL】<https://www.town.ohi.fukui.jp/>